



めがねのまちさばえ

Sabae Japan Eyeglasses

めがねのまちさばえ「眼育」プロジェクト

● 目的

特に子どもころからの目の健康づくり、目の健康に関する意識を高めてもらうために、「眼育（めいく）」という言葉で全国に発信していきたい。

「眼育(めいく)」は、福井県出身で『食育の祖』である石塚左玄の教えをもとに、福井から「食育」の大切さを全国、世界に発信したように、眼鏡フレーム国内シェア約 9 割を占める「めがねのまちさばえ」から、「眼育(めいく)」を発信することで、幼少期の視力不良の早期発見や目の健康推進だけでなく、眼鏡、レンズの大切さも知っていただくことを目的に事業を推進していきたい。

● 概要

・視覚検診の充実

人間の情報は約 80%が目から入ってくると言われています。成長過程において、その大切な目は、就学前後の幼児期までにほぼ完成されるといわれています。目の成長時期に異常を発見してあげることが子どもの将来に繋がることになるので、3 歳(就学前)から 5 歳(就学前)までの期間においてチェック体制を築きたい。

- ① 3 歳児健診での屈折検査導入(平成 27 年度から導入済)
弱視の早期発見・治療開始
- ② 4 歳児視力検査を保育所(園)・幼稚園で実施
3 歳児健診での見逃し防止、視覚の感受性期の子どもの視機能管理
弱視の早期発見・治療開始、知的な発達遅れのスクリーニング
平成 31 年度からモデル園(3~5 園)で実施
- ③ 就学前健診視力検査の単独実施
就学前の最終チェックと学習の遅れなどを未然に防止する
屈折検査の実施
平成 31 年度から全児童を対象に 2 日間(8 月)で実施。

・めがねのまちさばえ「子どもの眼育スタディ」

世界的に近視が社会問題になっている。水晶体の過緊張による近視化とスマホゲームの関連性を調査し、近視予防と原因究明を新潟医療福祉大学石井教授と連携し行いたい。

- ① 他覚的屈折検査による遠視、近視、乱視、正規の分類
視的環境調査(スマホ、PC、アプリ等)
- ② スマホゲームと視機能の関係調査
ゲーム中の調節力、スマホと動体視力の関係等
- ③ スマホ用調節緩解眼鏡の試用
装用群と非装用群の視線解析(照明の影響、疲労度、作業効率 など)
- ④ 鯖江式スマホ用調節緩解眼鏡の試作・販売

・目の健康づくり

子どもから高齢者まで、パソコンやスマホなどで疲れた目を癒すための体操や筋力強化を行うなどの目の健康づくりを推進し、目の健康への意識を向上させる。

- ① 中学校へのビジョントレーニング機器の導入(平成 30 年度)
- ② めがねのまちさばえの目の体操普及(平成 29 年度)
- ③ 目のストレス測定器「アコモレフ 2」を公立丹南病院へ導入(平成 30 年度)
- ④ 各保育所・幼稚園での眼育計画づくり(平成 31 年度～)
- ⑤ 高齢者向け、目の健康づくり教室の開催(平成 31 年度～)

・「眼育」PR

目の異常は、子どもは気づかないことが多く、周りの大人が気づいてあげることが大切です。そのため、目の大切さの重要性を認識していただくための周知活動を推進していきたい。

- ① 子どもの目の健康に関する意識調査
スマホ問題、幼児期の健診の重要性等を発信
- ② 視覚発達教育教材の開発
さばえ式絵本、紙芝居、視覚発達ゲームなどの教材開発
- ③ 市民への広報 PR
広報 PR 用タペストリーの作成、「眼育」研修会の実施、高齢者向けビジョントレーニング教室の実施、各種イベントでの PR、目の愛護デー(10/10)にあわせた P R 活動 (市広報紙、園だよりなど)